

学位論文内容の要旨

学位申請者	福岡 景奈 【ライフサイエンス専攻 平成25年度生】	要 旨
論文題目	小学校における給食時間の食育に関する研究 -適量摂取のためのソーシャルスキルトレーニング-	<p>本研究は、児童を対象に、適量摂取のためのソーシャルスキルトレーニング (Social Skills Training; SST) を取り入れた給食時間の食育を提案することを目的に、4つの研究を行った。</p> <p>研究1. 児童の残さず食べるセルフ・エフィカシーに関する検討 適量摂取ができないことと食べ残しとの関連を調べるため、都内 A 区の 5 年生児童に自記式質問紙調査を行い、2,659 人から回答を得た。「食事の量が多いとき」に残さず食べるセルフ・エフィカシーが低い者は食べ残しをする可能性が高く、適量摂取に関する指導の必要性が示唆された。</p> <p>研究2. 学校給食における配膳量と児童の体格・食べ残し・適量をもらうスキルの関連 学校給食の配膳量の実態と、それに関連する要因を検討するため、都内 A 区の 5 年生児童に自記式質問紙調査を行った。2,659 人の児童を対象に解析した結果、配膳量が多いと認識していた児童は、体格が小さく、食べ残しをする者が多く、適量をもらうスキルが身に付いていなかった。</p> <p>研究3. 食事の量が多いときに残さず食べようとする児童の特徴に関する検討 食事の量が多いときに残さず食べる児童の特徴を調べるため、東京都と千葉県 の 5 年生児童に自記式質問紙調査を行い、539 人から回答を得た。その結果、普段から食べ残しをしておらず、「人に作ってもらった料理は残さず食べなければいけない」などの態度を持つという特徴がみられた。適量摂取行動の実行には、主張性スキルを習得する必要性が示唆された。</p> <p>研究4. SST の手法を用いた適量の食事をもらうスキルを身に付けるための指導教材の開発 SST の手法を取り入れた適量摂取のためのスキルを身に付ける指導教材を開発した。東京都と千葉県の 5 年生 19 クラス 476 人に指導を行い、学級担任 19 人と学校栄養士 8 人から、教材が短時間で実施できる点等が評価された。非無作為化比較試験 (介入群 11 クラス 264 人, 対照群 8 クラス 212 人) により、介入群では指導後にスキル・態度の一部と行動に改善がみられた。</p> <p>今回、福岡景奈が行った研究から、小学校の食育における適量摂取に関する指導の必要性が示された。さらに、SST の手法を用いた指導教材が提案された。</p>
審査委員	(主査) 教授 赤松 利恵	
	准教授 須藤 紀子	
	教授 藤原 葉子	
	教授 香西 みどり	
	教授 大森 美香	